

# 山本直人教授 略歴・業績

## 〈略 歴〉

### 学 歴

1976(昭和51)年3月	石川県立羽咋高等学校卒業
1976(昭和51)年4月	広島大学文学部史学科考古学専攻入学
1980(昭和55)年3月	広島大学文学部史学科考古学専攻卒業
1980(昭和55)年4月	名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期史学地理学専攻入学
1982(昭和57)年3月	名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期史学地理学専攻修了
1982(昭和57)年4月	名古屋大学大学院文学研究科研究生 (1984年3月まで)
2002(平成14)年5月	博士 (文学・広島大学)

### 職 歴

1984(昭和59)年4月	石川県立埋蔵文化財センター主事
1990(平成2)年11月	名古屋大学文学部講師
1997(平成9)年8月	名古屋大学文学部助教授
2000(平成12)年4月	名古屋大学大学院文学研究科助教授
2003(平成15)年1月	名古屋大学大学院文学研究科教授
2017(平成29)年4月	名古屋大学大学院人文学研究科教授 (現在に至る)

### 学外非常勤講師

2000(平成12)年度	三重大学
2001(平成13)年度	富山大学 (集中講義、7月30日～8月2日)
2002(平成14)年度	金沢大学 (集中講義、10月28日～10月31日)
2003(平成15)年度	広島大学 (集中講義、7月22日～7月25日)
2004(平成16)年度	九州大学 (集中講義、7月5日～7月9日)
2008(平成20)年度	金沢大学 (集中講義、8月6日～8月8日)
2010～2012(平成22～24)年度	愛知学院大学
2015(平成27)年度	広島大学 (集中講義、12月22日～12月25日)

### 学外委員

1996(平成8)年4月～2023(令和5)年3月	小松市史専門委員会委員
1997(平成9)年8月～2007(平成19)年3月	安城市史編集委員会編集委員
1998(平成10)年5月～2007(平成19)年3月	野々市町史編纂専門委員会委員

2008(平成20)年1月～2009(平成21)年3月	美浜町誌執筆
2009(平成21)年12月～2010(平成22)年11月	科学研究費委員会専門委員
2014(平成26)年4月～2022(令和4)年3月	名古屋市文化財調査委員会委員
2015(平成27)年8月～2016(平成28)年7月	特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員
2016(平成28)年4月～2022(令和4)年3月	国立歴史民俗博物館運営会議委員
2017(平成29)年6月～2023(令和5)年3月	名古屋市博物館資料委員
2017(平成29)年4月～2018(平成30)年3月	史跡大曲輪貝塚保存活用計画策定検討会議構成員
2018(平成30)年12月～2019(令和元)年11月	科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者
2019(令和元)年8月～2019(令和元)年10月	史跡大曲輪貝塚の整備にかかる有識者会議構成員
2020(令和2)年12月～2021(令和3)年11月	科学研究費補助金における評価に関する委員会の評価者
2021(令和3)年9月～2022(令和4)年12月	史跡大曲輪貝塚の整備に関する懇談会構成員
2022(令和4)年6月～現在	かほく市史編集専門委員会専門委員

### 学外共同研究員

2008(平成20)年1月～2011(平成23)年3月	総合地球環境学研究所共同研究員
2014(平成26)年7月～2017(平成29)年3月	総合地球環境学研究所共同研究員
2016(平成28)年10月～2018(平成30)年3月	国立民族学博物館共同研究員

### 所属学会

1990(平成2)年5月～現在	日本考古学協会
1998(平成10)年4月～現在	動物考古学研究会・日本動物考古学会
1999(平成11)年4月～現在	日本文化財科学会
2000(平成12)年10月～現在	日本植生史学会
2008(平成20)年1月～現在	Society for American Archaeology

### 学会活動

1991(平成3)年4月～2003(平成15)年3月	財団法人古代学協会東海支部幹事
2003(平成15)年10月～2005(平成17)年11月	日本植生史学会第4期編集委員会委員
2007(平成19)年3月～2007(平成19)年6月	日本文化財科学会第1回表彰選考委員
2007(平成19)年10月～2009(平成21)年10月	日本植生史学会第6期行事委員長
2008(平成20)年11月	日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会委員
2008(平成20)年11月	日本植生史学会第23回大会実行委員会委員

2009(平成21)年7月	日本文化財科学会第26回大会実行委員会委員
2010(平成22)年4月～2022(令和4)年3月	日本文化財科学会学会誌編集委員
2010(平成22)年11月	日本植生史学会第25回大会実行委員会委員
2012(平成24)年4月～2014(平成26)年3月	日本文化財科学会第16期評議員
2015(平成28)年9月～現在	Journal of Wetland Archaeology Editorial board
2016(平成28)年4月～2018(平成30)年3月	日本文化財科学会第18期評議員
2017(平成29)年5月～2017(平成29)年7月	日本植生史学会第4回論文賞審査委員
2018(平成30)年4月～2020(平成32)年3月	日本文化財科学会第19期評議員
2018(平成30)年7月～2020(令和2)年9月	日本文化財科学会第19期幹事
2018(平成30)年2月～2018(平成30)年7月	日本文化財科学会第12回表彰選考委員
2019(平成31)年4月～2019(令和元)年6月	日本文化財科学会第13回表彰選考委員長
2019(令和元)年5月～2019(令和元)年7月	日本植生史学会第5回論文賞審査委員
2020(令和2)年5月～2020(令和2)年7月	日本植生史学会第12回奨励賞審査委員
2020(令和2)年9月～2022(令和4)年9月	日本文化財科学会第20期幹事

賞 罰 なし

## 〈業 績〉

### 1. 著書（単著）

- 1 山本直人、2002年11月、『縄文時代の植物採集活動—野生根茎類食料化の民俗考古学的研究—』（B5判、258頁）、溪水社：広島。  
2008年6月、『縄文時代の植物採集活動』増訂版（B5判、262頁）、溪水社：広島。
- 2 山本直人、2007年11月、『文理融合の考古学』（B5判、210頁）、高志書院：東京。
- 3 山本直人、2013年11月、『縄文時代の生業と社会』（A5判、206頁）、同成社：東京。
- 4 山本直人、2020年5月、『縄文時代地域社会の実態』（A5判、248頁）、同成社：東京。

### 2a. 論文（査読あり）

- 1 山本直人、1990年12月、「縄文時代の地域社会論に関する一試論」『古代文化』第42巻第12号、45～53頁、古代学協会：京都。
- 2 山本直人、1993年3月、「縄文時代後・晩期の打製石斧による生産活動」『考古論集—潮見浩先生退官記念論文集—』、229～242頁、潮見浩先生退官記念事業会：広島。
- 3 山本直人、1998年3月、「縄文時代における敲打製石製品出現の技術的背景」『植崎彰一先生古希記念論文集』、535～542頁、真陽社：京都。
- 4 山本直人、1999年5月、「AMS<sup>14</sup>C年代測定法による低湿地型貯蔵穴の分析」『動物考古学』第12号、1～15頁、動物考古学研究会：佐倉。
- 5 小田寛貴・山本直人、2001年8月、「縄文土器のAMS<sup>14</sup>C年代と校正年代」『考古学と自然科学』第42号、1～13頁、日本文化財科学会：奈良。
- 6 山本直人、2001年11月、「火焰土器の装飾突起に関する一試論」『久保和士君追悼考古論文集』、35～44頁、久保和士君追悼考古論文集刊行会：松山。

- 7 山本直人、2004年11月、「弥生時代はいつ始まったのか?」『エコソフィア』第14号、68～73頁、昭和堂：京都。
- 8 山本直人・水野梨恵子、2005年11月、「御経塚遺跡における縄文土器の彩色と色調」『考古論集—川越哲志先生退官記念論文集—』、101～116頁、川越哲志先生退官記念事業会：広島。
- 9 山本直人、2007年5月、「東海・北陸における弥生時代の開始年代」『縄文時代から弥生時代へ』新弥生時代のはじまり第2巻、35～44頁、雄山閣：東京。
- 10 山本直人、2007年12月、「縄文時代の植物食利用技術」『なりわい 食料生産の技術』縄文時代の考古学5、17～30頁、同成社：東京。
- 11 工藤雄一郎・小林謙一・山本直人・吉田淳・中村俊夫、2008年12月、「石川県御経塚遺跡から出土した縄文時代後・晩期土器の年代学的研究」『第四紀研究』第47巻第6号、409～423頁、日本第四紀学会：八王子。
- 12 小林謙一・福海貴子・坂本稔・工藤雄一郎・山本直人、2009年3月、「北陸地方石川県における縄文晩期から弥生移行期の炭素14年代測定研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第150集、1～32頁、国立歴史民俗博物館：佐倉。
- 13 山本直人、2016年12月、「東海地方西部の縄文時代後晩期社会に関する覚書」『広島大学大学院文学研究科 考古学研究室50周年記念論文集・文集』、159～174頁、広島大学大学院文学研究科考古学研究室：東広島。
- 14 山本直人、2019年1月、「縄文時代の三引低湿地遺跡の変遷とその要因」『旧石器時代文化から縄文時代文化の潮流』、389～398頁、六一書房：東京。
- 15 山本直人、2020年3月、「縄文時代の装身具」『ビーズでたどるホモ・サピエンス史』、51～63頁、昭和堂：京都。

## 2b. 論文（査読なし）

- 1 山本直人、1983年3月、「加賀における縄文時代の網漁について」『北陸の考古学』（『石川考古学研究会々誌』第26号）、199～217頁、石川考古学研究会：金沢。
- 2 山本直人、1985年3月、「石川県における打製石斧について」『石川考古学研究会々誌』第28号、35～56頁、石川考古学研究会：金沢。
- 3 山本直人、1986年3月、「石川県における古代中世の網漁業の展開」『石川考古学研究会々誌』第29号、107～126頁、石川考古学研究会：金沢。
- 4 山本直人、1987年3月、「北陸における複式炉出現前段階期の炉」『石川考古学研究会々誌』第30号、41～54頁、石川考古学研究会：金沢。
- 5 山本直人、1989年3月、「石川県におけるワラ・タケ以外のカゴ類」『北陸の考古学』II（『石川考古学研究会々誌』第32号）、39～60頁、石川考古学研究会：金沢。
- 6 山本直人、1990年3月、「加賀能登における中世集落遺跡の農業経済基盤」『石川考古学研究会々誌』第33号、55～78頁、石川考古学研究会：金沢。
- 7 山本直人、1992年3月、「縄文時代の下呂石の交易」『名古屋大学文学部研究論集』113（史学38）、83～104頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 8 山本直人、1993年3月、「能登半島における古代土器製塩の基礎的研究」『石川考古学研究会々誌』第36号、35～48頁、石川考古学研究会：金沢。

- 9 山本直人、1993年3月、「縄文時代の乳棒状敲石」『名古屋大学文学部研究論集』116（史学39）、15～30頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 10 山本直人、1994年3月、「絵巻物にみられる漆器の基礎的研究」『石川考古学研究会々誌』第37号、59～74頁、石川考古学研究会：金沢。
- 11 山本直人、1994年3月、「絵巻物による建物の一考察」『名古屋大学文学部研究論集』119（史学40）、77～106頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 12 山本直人、1995年3月、「縄文時代におけるクズ食糧化の基礎的研究」『石川考古学研究会々誌』第38号、1～28頁、石川考古学研究会：金沢。
- 13 山本直人、1995年3月、「縄文時代における野生根茎類食糧化の基礎的研究」『名古屋大学文学部研究論集』122（史学41）、83～130頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 14 山本直人、1996年3月、「縄文時代における野生根茎類食糧化の民俗考古学的研究」『石川考古学研究会々誌』第39号、1～20頁、石川考古学研究会：金沢。
- 15 山本直人、1996年3月、「野生根茎類食糧化に関する事例研究」『名古屋大学文学部研究論集』125（史学42）、43～99頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 16 山本直人、1997年3月、「野生地下茎食糧化に関する事例研究」『名古屋大学文学部研究論集』128（史学43）、19～42頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 17 山本直人、1998年3月、「縄文時代における野生地下茎食糧化の地域性と季節性」『名古屋大学文学部研究論集』131（史学44）、31～46頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 18 山本直人、1999年3月、「放射性炭素年代測定法による縄文時代の研究」『名古屋大学文学部研究論集』134（史学45）、37～54頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 19 山本直人、2000年3月、「付着炭化物の化学処理からみた縄文土器の煮炊形態」『名古屋大学文学部研究論集』137（史学46）、1～10頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 20 山本直人、2001年3月、「縄文後・晩期土器型式群の較正暦年代と年代比較」『名古屋大学文学部研究論集』140（史学）、1～5頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 21 山本直人、2001年3月、「能登半島七尾湾岸の縄文遺跡群に関する一考察」『能登半島の考古学』（『石川考古学研究会々誌』第44号）、17～32頁、石川考古学研究会：金沢。
- 22 山本直人、2009年3月、「環状木柱列からみた縄文時代晩期の地域社会」『名古屋大学文学部研究論集』164（史学55）、25～38頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 23 山本直人、2010年3月、「縄文時代晩期における気候変動と土器型式の変化」『名古屋大学文学部研究論集』167（史学56）、59～67頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 24 工藤雄一郎・山本直人・中村俊夫、2011年3月、「中屋サワ遺跡から出土した木質遺物の<sup>14</sup>C年代測定」『石川考古学研究会々誌』第54号、1～10頁、石川考古学研究会：金沢。
- 25 山本直人、2011年3月、「縄文時代の打欠石錘の用途に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』170（史学57）、19～46頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 26 山本直人、2012年3月、「建物からみた手取川扇状地の縄文後晩期社会」『名古屋大学文学部研究論集』173（史学58）、113～130頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 27 山本直人、2013年3月、「縄文晩期の手取川扇状地における外来系土器の移入形態」『名古屋大学文学部研究論集』176（史学59）、61～72頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 28 山本直人、2013年5月、「地域社会という用語に関する覚書」『東海縄文論集』、21～24頁、東海縄文研究会。

- 29 山本直人、2015年3月、「サステイナブル・コミュニティとしての縄文時代後晩期の地域社会」『名古屋大学文学部研究論集』182（史学61）、57～74頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 30 山本直人・渋谷綾子・上條信彦、2016年3月、「残存デンプン粒分析からみた縄文時代の植物質食料—石川県の遺跡を対象として—」『名古屋大学文学部研究論集』185（史学62）、51～82頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 31 山本直人、2017年3月、「縄文時代の植物質遺物の較正年代と土器内面炭化物の炭素・窒素安定同位体比—石川県の遺跡を対象として—」『名古屋大学文学部研究論集』188（史学63）、1～24頁、名古屋大学文学部：名古屋。
- 32 山本直人、2018年3月、「縄文時代と北米北西海岸先史時代の比較研究のための基礎的報告」『名古屋大学人文学研究論集』第1号、213～244頁、名古屋大学人文学研究科：名古屋。

### 3. 書評（査読あり）

- 1 山本直人、2005年12月、「書評 小林謙一著『縄文社会研究の新視点—炭素14年代測定の利用—』」『考古学研究』第52巻第3号、86～88頁、考古学研究会：岡山。
- 2 山本直人、2014年7月、「ここまでわかった！縄文時代の植物利用」『歴博』第185号、30頁、国立歴史民俗博物館：佐倉。
- 3 山本直人、2018年10月、「書評 小林謙一著『縄紋時代の実年代』」『日本考古学』第46号、93～98頁、日本考古学協会：東京。

### 4. 解説（査読あり）

- 1 山本直人、1988年11月、「北陸地方の漁網錘」『季刊考古学』第25号、50～54頁、雄山閣：東京。
- 2 山本直人、1990年11月、「論文展望—加賀能登における中世集落遺跡の農業経済基盤—」『季刊考古学』第33号、105頁、雄山閣：東京。
- 3 山本直人、2004年8月、「絵巻物の中の漆器」『文化遺産の世界』13号、10・11・16頁、国際航業：東京。
- 4 山本直人・高田秀樹、2004年12月、「石川県真脇遺跡で検出された縄文晩期の環状木柱列」『植生史研究』第13巻第1号、1～2頁、日本植生史学会：佐倉。
- 5 山本直人、2007年7月、「縄文時代から弥生時代へ」『歴博』第143号、19～23頁、国立歴史民俗博物館：佐倉。
- 6 北村繁・小田寛貴・山本直人、2007年7月、「中米・エルサルバドル共和国サンサルバドル県北部で発見された3～5世紀の巨大噴火で埋もれた森」『植生史研究』第15巻第1号、55～57頁、日本植生史学会：仙台。
- 7 菅野智則・山本直人・宮尾亨・岩崎厚志・松井章、2008年3月、「アメリカ オレゴン州サンケン・ビレッジ遺跡」『考古学研究』第54巻第4号、120～123頁、考古学研究会：岡山。

- 8 水沢教子・菅野智則・山本直人・松井章ほか、2013年3月、「アメリカ ワシントン州オゼット遺跡とマッド・ベイ遺跡」『考古学研究』第59巻第4号、109～112頁、考古学研究会：岡山。
- 9 真貝理香・菅野智則・山本直人・羽生淳子・松井章ほか、2015年12月、「カナダ・トリケット島における先史時代遺跡の調査」『考古学研究』第62巻第3号、16～20頁、考古学研究会：岡山。
- 10 山本直人、2017年3月、「縄文・弥生時代の石ビーズ」『ビーズ つなぐ かざる みせる』、33頁、国立民族学博物館：吹田。
- 11 山本直人、2021年6月、「解題 低湿地遺跡の調査と研究」『松井章著作集 動物考古学論』、340～344頁、新泉社：東京。

#### 5. 学界動向（査読あり）

- 1 山本直人、1992年5月、「1991年の動向 縄文時代（東日本）」『月刊考古学ジャーナル』347、24～36頁、ニュー・サイエンス社：東京。
- 2 山本直人、1992年5月、「1991年の縄文時代学界動向・生業論」『縄文時代』第3号、199～201頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 3 山本直人、1998年5月、「1997年の縄文時代学界動向・生業論」『縄文時代』第9号、187～191頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 4 山本直人、1999年12月、「縄文時代文化研究の100年 方法論 生態考古学」『縄文時代』第10号、31～37頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 5 長沢宏昌・山本直人、1999年12月、「縄文時代文化研究の1000年 生業研究 総論」『縄文時代』第10号、260～276頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 6 山本直人、1999年12月、「縄文時代文化研究の100年 関連科学研究 放射性炭素年代測定法」『縄文時代』第10号、302～307頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 7 山本直人、2000年5月、「1999年の縄文時代学界動向・関連科学研究 年代測定」『縄文時代』第11号、255～259頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 8 山本直人、2001年5月、「2000年の縄文時代学界動向・関連科学研究 年代測定」『縄文時代』第12号、222～224頁、縄文時代文化研究会：所沢。
- 9 山本直人、2018年5月、「2017年の縄文時代学界動向 関連科学（年代測定）」『縄文時代』第29号、219～221頁、縄文時代文化研究会：逗子。
- 10 山本直人、2019年5月、「2018年の縄文時代学界動向 関連科学（年代測定）」『縄文時代』第30号、224～226頁、縄文時代文化研究会：逗子。
- 11 山本直人、2021年5月、「2020年の縄文時代学界動向 関連科学（年代測定）」『縄文時代』第32号、209～211頁、縄文時代文化研究会：逗子。

#### 6. 自治体史（査読あり）

- 1 山本直人・小田寛貴、1999年10月、「八剣貝塚・東端貝塚の放射性炭素年代測定」『安城市史だより』第5号、5頁、市史編さん室：安城。
- 2 山本直人、2003年3月、「概説」『野々市町史』資料編1（考古 古代・中世）、32頁、石川県野々市町。

- 3 山本直人、2003年3月、「縄文土器の赤彩と黒彩」『野々市町史』資料編1（考古 古代・中世）、75～96頁、石川県野々市町。
- 4 小田寛貴・山本直人、2003年3月、「土器付着炭化物の放射性炭素年代測定」『野々市町史』資料編1（考古 古代・中世）、103～114頁、石川県野々市町。
- 5 山本直人、2004年5月、『新編 安城市史』10（資料編 考古）、2・3・10・11・26・27・510・511・513～515頁、安城市。
- 6 山本直人、2005年3月、『図説 野々市町の歴史』、10～13頁、石川県野々市町。
- 7 山本直人、2006年11月、「第1章第1節 扇状地のあけぼの」『野々市町史』通史編、14～19・34～47頁、石川県野々市町。
- 8 山本直人、2007年3月、「第1章 旧石器・縄文時代」『新編 安城市史』1（通史編 原始・古代・中世）、1～30頁、安城市。
- 9 山本直人、2007年9月、「通史編考古のすすめ」『安城市史だより』第25号、2頁、市史編さん室：安城。
- 10 山本直人、2009年3月、「日本列島先史時代の中的美浜町」『わかさ美浜町誌』第6巻（掘る・使う）、15～35頁、美浜町：福井県美浜町。
- 11 山本直人、2010年12月、「小松の黎明 弥生集落と農耕 木器のある暮らし」『図説 こまつ の歴史』新修小松市史10、8～13頁、石川県小松市。
- 12 山本直人、2020年3月、『新修小松市史』資料編17考古、38～43・70～93頁、石川県小松市。
- 13 山本直人、2022年3月、「狩猟採集漁労民の文化と社会」『新修小松市史』通史編、24～43頁、石川県小松市。

#### 7a. 発掘調査報告書（編集・執筆、査読なし）

- 1 山本直人、1986年3月、『石川県能美郡辰口町岩内遺跡発掘調査報告書』、1～39・70・78～80頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 2 山本直人、1987年3月、『石川県石川郡河内村福岡遺跡』、1～39・84～92頁、河内村教育委員会：石川県河内村。
- 3 山本直人、1988年3月、『石川県能美郡辰口町岩内遺跡』、1～10・41～44・49頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 4 山本直人、1988年11月、『佐々木アサバタケ遺跡 II』、32～38頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 5 山本直人、1989年3月、『石川県鹿島郡鹿島町水白モンショ遺跡』、1～68・88～101頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。

#### 7b. 発掘調査報告書（分担執筆、査読なし）

- 1 山本直人、1983年9月、『野々市町御経塚遺跡』、229～253頁、野々市町教育委員会：石川県野々市町。
- 2 山本直人、1984年3月、『永町ガマノマガリ遺跡』、8～9頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。

- 3 山本直人、1985年3月、『金沢市北安江遺跡』、70～85頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 4 山本直人、1985年3月、『昭和59年度県営ほ場整備事業・県営公害防除特別土地改良事業関係埋蔵文化財調査概要』、24～25頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 5 山本直人、1986年3月、『金沢市近岡遺跡』、50～53・66～70・77頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 6 山本直人、1986年3月、『漆町遺跡Ⅰ』、99～100頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 7 山本直人、1986年3月、『金沢市新保本町チカモリ遺跡』、310～312頁、金沢市教育委員会：金沢。
- 8 山本直人、1986年12月、『石川県能都町真脇遺跡』、248～259・262～319頁、能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団：石川県能都町。
- 9 山本直人、1987年3月、『小松市中海遺跡』、27～63・70～80頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 10 山本直人、1987年3月、『宿東山遺跡』、35～45頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 11 山本直人、1987年3月、『永町ガマノマガリ遺跡』、17～31頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 12 山本直人、1988年3月、『辰口西部遺跡群Ⅰ』、69～89頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 13 山本直人、1988年3月、『吉崎・次場遺跡』、173～183頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 14 山本直人、1988年3月、『漆町遺跡Ⅱ』、92～93頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 15 山本直人、1989年3月、『漆町遺跡Ⅲ』、5～29頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 16 山本直人、1990年3月、『小松市高堂遺跡』、169～181頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 17 山本直人、1990年3月、「清金アガトウ遺跡」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会 年報1』、59～60頁、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会：小松。
- 18 山本直人、1991年3月、「清金アガトウ遺跡」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会 年報2』、17頁、社団法人石川県埋蔵文化財保存協会：小松。
- 19 山本直人、1992年3月、『千代』、10～15頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 20 山本直人、1993年3月、『能登縄文資料 山内清男考古資料6』奈良国立文化財研究所資料第39冊、9・10・15・31・36・46・61・68・70・84・86・88・92頁、奈良。
- 21 山本直人、1997年3月、「通ジゾハナ遺跡の石器石材に関する一考察」『通ジゾハナ遺跡』、102～106頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 22 山本直人、1998年3月、「焼土および縄文土器のAMS<sup>14</sup>C年代」『金沢市北塚遺跡』金沢市文化財紀要139、101～105頁、金沢市教育委員会：金沢。
- 23 山本直人、1998年3月、「土坑出土炭化堅果類のAMS<sup>14</sup>C年代」『上町和住下遺跡』、73～75頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 24 小田寛貴・山本直人、2002年3月、「土器付着炭化物の加速器質量分析法による<sup>14</sup>C年代測定」『金沢市藤江C遺跡Ⅳ・Ⅴ』、118～119頁、財団法人石川県埋蔵文化財センター：金沢。

- 25 伊藤伸幸・山本直人、2004年3月、「H-114号窯」『愛知県埋蔵文化財情報』19、19～20頁、愛知県埋蔵文化財センター：愛知県弥富町。
- 26 山本直人、2006年3月、「発掘調査に至る経緯」『東山114号窯発掘調査報告書』、3頁、名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室：名古屋。
- 27 小林謙一・坂本稔・永島正春・今村峯雄・山本直人、2009年3月、「金沢市中屋サワ遺跡試料の<sup>14</sup>C年代測定」『石川県金沢市中屋サワ遺跡Ⅳ 下福増遺跡Ⅱ 横江荘遺跡Ⅱ』金沢市文化財紀要255、160～177頁、金沢市埋蔵文化財センター：金沢。
- 28 能城修一・佐々木由香・山本直人、2009年3月、「中屋サワ遺跡出土木材の樹種」『石川県金沢市中屋サワ遺跡Ⅳ 下福増遺跡Ⅱ 横江荘遺跡Ⅱ』金沢市文化財紀要255、178～190頁、金沢市埋蔵文化財センター：金沢。
- 29 工藤雄一郎・山本直人、2009年3月、「大阪府松原市三宅西遺跡から出土した縄文時代後期の土器付着物の<sup>14</sup>C年代測定」『三宅西遺跡—分析・総括・観察表編—』(財)大阪府文化財センター調査報告書第189集、464～470頁、財団法人大阪府文化財センター：堺。
- 30 三岡由佳・山本直人、2010年3月、「東山114号窯出土木材の炭素14年代測定」『東山61号窯発掘調査報告書』、44～45頁、名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室：名古屋。
- 31 山本直人・佐野元・奥野絵美、2010年3月、「特論—保美貝塚出土土器付着炭化物の絶対年代」『保美貝塚の研究』、133～136頁、南山大学人類学博物館：名古屋。

#### 8. 測定結果報告（査読なし）

- 1 山本直人、1997年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(1)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』VIII、222～230頁、名古屋大学年代測定資料研究センター：名古屋。
- 2 山本直人、1998年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(2)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』IX、161～170頁、名古屋大学年代測定資料研究センター：名古屋。
- 3 山本直人、1999年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(3)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』X、121～123頁、名古屋大学年代測定資料研究センター：名古屋。
- 4 山本直人・小田寛貴、2000年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(4)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XI、160～161頁、名古屋大学年代測定資料研究センター：名古屋。
- 5 山本直人・小田寛貴、2000年3月、「弥生土器の AMS<sup>14</sup>C年代(1)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XI、162頁、名古屋大学年代測定資料研究センター：名古屋。
- 6 山本直人・小田寛貴、2001年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(5)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XII、215～219頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 7 小田寛貴・山本直人、2002年3月、「弥生土器・古式土師器の AMS<sup>14</sup>C年代」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XIII、161～166頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 8 山本直人・小田寛貴、2002年3月、「縄文土器の AMS<sup>14</sup>C年代(6)」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XIII、167～169頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 9 小田寛貴・山本直人、2002年3月、「愛知県安城市堀内貝塚の AMS<sup>14</sup>C年代測定」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XIII、170～176頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。

- 10 木野瀬正典・赤塚次郎・小田寛貴・山本直人・中村俊夫、2004年3月、「尾張地域の弥生時代、古墳時代の土器に付着した炭化物の放射性炭素年代」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XV、18～25頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 11 木野瀬正典・小田寛貴・赤塚次郎・山本直人・中村俊夫、2005年3月、「弥生・古墳時代の土器に付着した炭化物のAMS<sup>14</sup>Cの年代測定」『名古屋大学加速器室質量分析計業績報告書』XVI、95～104頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 12 工藤雄一郎・小林謙一・山本直人・吉田淳・中村俊夫、2008年3月、「石川県御経塚遺跡における縄文時代後晩期の土器付着物の<sup>14</sup>C年代測定」『名古屋大学加速器室質量分析計業績報告書』XIX、79～84頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 13 三岡由佳・菅野裕之・中村俊夫・山本直人、2010年3月、「東山114号窯灰層出土炭化材の炭素14年代測定」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XXI、93～95頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 14 能城修一・山本直人・小岩直人ほか、2018年5月、「小松市園町遺跡と大領遺跡における自然科学分析」『石川県埋蔵文化財情報』第39号、48～55頁、(公益財団法人)石川県埋蔵文化財センター：金沢。

#### 9. 資料紹介（査読なし）

- 1 山本直人、1985年7月、「内浦町新保遺跡表採の石槍」『石川考古』第161号、6頁、石川考古学研究会：金沢。
- 2 山本直人、1985年10月、「小松市小原遺跡のカゴ底圧痕（予報）」『石川考古』第163号、7頁、石川考古学研究会：金沢。
- 3 山本直人、1986年3月、「辰口町岩内遺跡テラダ地区出土の墨書土器」『拓影』第20号、6頁、石川県立埋蔵文化財センター：金沢。
- 4 藁科哲男・東村武信・山本直人、1986年3月、「真脇遺跡出土のサヌカイト、黒曜石製遺物の石材産地分析結果」『石川考古学研究会々誌』第30号、55～62頁、石川考古学研究会：金沢。
- 5 山本直人、1987年3月、「金沢市戸水C遺跡出土のカゴ」『石川考古学研究会々誌』第30号、63～65頁、石川考古学研究会：金沢。
- 6 山本直人、1989年3月、「笠舞遺跡・無量寺遺跡出土の骨角器」『石川考古』第190号、2頁、石川考古学研究会：金沢。
- 7 山本直人・椎貝秋津、1995年3月、「木製装身具」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 装身具I』、45～51頁、石川考古学研究会：金沢。
- 8 山本直人、1998年3月、『石川県考古資料調査・集成事業報告書 祭祀具I』、10・11・15頁、石川考古学研究会：金沢。
- 9 山本直人、2022年1月、「教員の自著紹介 山本直人『縄文時代地域社会の実態』同成社」『名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室 年報2020』、12頁、名古屋。

#### 10a. 学会発表

- 1 2006年6月17・18日、山本直人・菅野裕之・赤塚次郎・中村俊夫、「須恵器出現期の土師器付着炭化物の較正年代」（ポスター）、日本文化財科学会第23回大会、東京学芸大学。

- 2 2008年3月28日、Yamamoto, Naoto. On the Monumental Wooden Circles of Jomon. Society for American Archaeology, the 73rd Annual Meeting. Vancouver Convention and Exhibition Centre.
- 3 2008年6月30日、Naoto Yamamoto. Wetland sites of Jomon period in the Noto Peninsula, Central Japan. 6th World Archaeological Congress. University College Dublin.
- 4 2008年11月8日、山本直人、「絶対年代」、日本考古学協会2008年度愛知大会、南山大学。
- 5 2009年4月25日、Naoto Yamamoto and Akitoshi Iwase. Specialized clam-processing sites of the final Jomon period in Central Japan. Society for American Archaeology, the 74th Annual Meeting. Atlanta Marriot Marquis.
- 6 2009年7月12日、山本直人・水野蛸・奥野絵美・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ、「石川県三引遺跡の堅果類貯蔵穴の炭素14年代測定」(ポスター)、日本文化財科学会第26回大会、名古屋大学。
- 7 2010年6月26日、山本直人・水野蛸、「炭素14年代測定法による縄文早期三引遺跡の存続期間に関する一試行」(ポスター)、日本文化財科学会第27回大会、関西大学。
- 8 2012年11月24日、上條信彦・渋谷綾子・山本直人、「北陸の縄文後・晩期遺跡から出土した石器と土器付着炭化物の残存デンプン粒」、日本植生史学会第27回大会、アオーレ長岡。
- 9 2015年8月2日、Naoto Yamamoto. Jomon wetland sites on the east coast of the Noto Peninsula, Central Japan. XIX International Union for Quaternary Research. Nagoya Congress Center.
- 10 2016年6月29日、Naoto Yamamoto. Wooden Circles in the Final Jomon period of Japan. Wetland Archaeology Research Project 30th Anniversary Meeting. University of Bradford.
- 11 2016年9月1日、Naoto Yamamoto. The Wetland sites of the Late and Final Jomon period in the Noto Peninsula, Central Japan. The 8th World Archaeological Congress. Doshisha University.
- 12 2017年3月30日、Naoto Yamamoto, Kumiko Horikawa and Takako Shimohama. Ethnoarchaeological Analysis of Prehistoric Baskets from Central Japan and Basketry techniques found at the Museum of Archaeological Research. Society for American Archaeology, the 82nd Annual Meeting. Vancouver Convention and Exhibition Centre.
- 13 2019年6月1日、小岩直人・高橋未央・山本直人・檜田誠・柴正敏、「小松市八日市地方遺跡周辺の地形環境に関する考察」、日本文化財科学会第36回大会、東京藝術大学。

#### 10b. 学会発表要旨 (査読あり)

- 1 2006年6月、菅野裕之・赤塚次郎・中村俊夫・山本直人、「須恵器出現期の土師器付着炭化物の較正年代」『日本文化財科学会 第23回大会研究発表要旨集』、108～109頁、日本文化財科学会第23回大会実行委員会：小金井。
- 2 2008年3月、Yamamoto, Naoto. On the Monumental Wooden Circles of Jomon. Society for American Archaeology, Abstracts of the 73<sup>rd</sup> Annual Meeting. p. 604
- 3 2008年6月、Naoto Yamamoto. Wetland sites of Jomon period in the Noto Peninsula, Central Japan. 6<sup>th</sup> World Archaeological Congress. p. 340
- 4 2008年11月、山本直人、「絶対年代」『日本考古学協会2008年度大会 研究発表要旨』、10～11頁、日本考古学協会：東京。

- 5 2008年11月、山本直人、「絶対年代」『日本考古学協会 2008年度愛知大会研究発表資料集』、19～24頁、日本考古学協会2008年度愛知大会実行委員会：名古屋。
  - 6 2009年4月、Yamamoto, Naoto and Akitoshi Iwase. Specialized clam-processing sites of the final Jomon period in Central Japan. Society for American Archaeology, Abstracts of the 74th Annual Meeting, p. 363
  - 7 2009年7月、山本直人・水野蚩・奥野絵美・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ、「石川県三引遺跡の堅果類貯蔵穴の炭素14年代測定」『日本文化財科学会第26回大会 研究発表要旨集』、142～143頁、日本文化財科学会第26回大会実行委員会：名古屋。
  - 8 2010年6月、山本直人・水野蚩、「炭素14年代測定法による縄文早期三引遺跡の存続期間に関する一試行」『日本文化財科学会第27回大会 研究発表要旨集』、278～279頁、日本文化財科学会第27回大会実行委員会：吹田。
  - 9 2012年11月、上條信彦・渋谷綾子・山本直人、「北陸の縄文後・晩期遺跡から出土した石器と土器付着炭化物の残存デンプン粒」『日本植生史学会第27回大会講演要旨集』、60～61頁、日本植生史学会：長岡。
  - 10 2016年8月、Naoto Yamamoto. The Wetland sites of the Late and Final Jomon period in the Noto Peninsula, Central Japan. Abstracts Theme 10: Science and Archaeology, The 8th World Archaeological Congress. p. 298
  - 11 2019年6月、小岩直人・高橋未央・山本直人・樫田誠・柴正敏、「小松市八日市地方遺跡周辺の地形環境に関する考察」『日本文化財科学会第36回大会 研究発表要旨集』、36～37頁、日本文化財科学会第36回大会実行委員会：東京。
11. 研究集会発表要旨（査読なし）
- 1 山本直人、1986年5月、「石川県における網漁業について（発表要旨）」『石川考古』第168号、4頁、石川考古学研究会：金沢。
  - 2 山本直人、1989年12月、「縄文人の編衣」『第39回石川県五学会連合研究発表会』、10～11頁、金沢。
  - 3 山本直人、1998年3月、「土器付着炭化物による土器の $^{14}\text{C}$ 年代」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』IX、86～89頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
  - 4 山本直人、1999年5月、「AMS $^{14}\text{C}$ 年代測定法による低湿地型貯蔵穴の年代決定」『動物考古学』第12号、121頁、動物考古学研究会：佐倉。
  - 5 山本直人、1999年11月、「AMS $^{14}\text{C}$ 年代測定法 考古資料への適用」『いま、歴史資料を考える』、91～98頁、名古屋大学文学部史学科：名古屋。
  - 6 山本直人・小田寛貴・吉田淳、2001年3月、「縄文後・晩期集落の存続期間に関する一試行」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XII、113～117頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
  - 7 山本直人・小田寛貴、2001年5月、「安城市東端貝塚・八剣貝塚の AMS $^{14}\text{C}$ 年代と校正年代」『動物考古学』第16号、131頁、動物考古学研究会：佐倉。
  - 8 山本直人、2003年6月、「経緯説明」『第44回名大祭考古学集会 AMS $^{14}\text{C}$ 年代測定法による尾張・三河の古墳出現期の年代』、1～2頁、名古屋大学考古学研究室：名古屋。

- 9 山本直人、2003年11月、「AMS<sup>14</sup>C年代測定法の縄文研究への活用」『第5回考古科学シンポジウム発表要旨』、37～42頁、考古科学シンポジウム世話人会：東京。
- 10 山本直人・赤塚次郎、2004年3月、「濃尾平野における弥生後期～古墳前期の炭素14年代測定と炭素安定同位体比」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書』XV、136～143頁、名古屋大学年代測定総合研究センター：名古屋。
- 11 山本直人、2009年12月、「紀元前1千年紀の気候変動と日本列島社会」『紀元前1千年紀考』名古屋大学大学院文学研究科公開シンポジウム報告書、3～10頁、名古屋。
- 12 山本直人、2017年5月、「贈答からみた縄文時代の地域社会間交流」『石川県埋蔵文化財情報』第37号、22～25頁、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター：金沢。

#### 12a. 科学研究費補助金

- 1 平成5年度科学研究費補助金、奨励研究(A)『縄文時代における野生根茎類・球根類利用技術の民俗考古学的研究』(研究代表者)。
- 2 平成6年度科学研究費補助金、奨励研究(A)『日本古代中世における網漁業の民俗考古学的研究』(研究代表者)。
- 3 平成7・8・9年度科学研究費補助金、基盤研究(B)(2)『考古学資料と絵巻物資料の比較研究のためのデータベースと情報管理システムの開発』(研究代表者)。
- 4 平成11・12・13年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(2)『加速器質量分析放射性炭素年代測定法による縄文時代集落の存続期間に関する研究』(研究代表者)。
- 5 平成13年度科学研究費補助金、基盤研究(A)『サハリンから北東日本海域における古代・中世交流史の考古学的研究』(研究分担者)。
- 6 平成16・17・18年度科学研究費補助金、基盤研究(B)(海外)『メソアメリカに於ける古代都市の発展に関する研究』(研究分担者)。
- 7 平成19・20年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(一般)『縄文時代における栽培植物の帰属年代の再検討および貯蔵穴出土堅果類の年代決定』(研究代表者)。
- 8 平成19・20・21年度科学研究費補助金、基盤研究(B)(一般)『ウイグルマッピング法による木製文化財の高精度年代推定のための必要条件の検討』(研究分担者)。
- 9 平成20年度国際学会等派遣事業、『第6回世界考古学会議(アイルランド・ダブリン)』(申請者)。
- 10 平成22・23・24年度科学研究費補助金、基盤研究(B)(一般)『考古学と人類学のコラボレーションによる縄文社会の総合的研究』(研究分担者)。
- 11 平成25・26・27年度科学研究費補助金、基盤研究(B)(一般)『愛知県保美貝塚出土資料による考古学・人類学のコラボレーションモデルの構築と展開』(研究分担者)。

#### 12b. 科学研究費補助金報告書(査読なし)

- 1 山本直人、1998年3月、『考古学資料と絵巻物資料の比較研究のためのデータベースと情報管理システムの開発』平成7・8・9年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書、名古屋。

- 2 山本直人、2002年3月、『加速器質量分析放射性炭素年代測定法による縄文時代集落の存続期間に関する研究』平成11・12・13年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、名古屋。

### 13a. 研究助成金

- 1 平成5年度食文化研究助成、財団法人味の素食の文化センター、「野生根茎類食糧化に関する民俗学・民具学的研究—クズ・ワラビを中心として—」(申請者)。
- 2 平成14年度赤崎記念研究奨励事業、名古屋大学、「加速器炭素14年代測定法による東海地方の弥生・古墳時代の年代に関する研究」(代表者)。
- 3 第37回(平成20年度)三菱財団法人人文科学研究助成、財団法人三菱財団、「北米北西海岸における先史時代ドングリ貯蔵穴の日米共同研究」(代表研究者)。
- 4 平成23年度歴史学・地理学研究助成、財団法人福武学術文化振興財団、「デンプン分析と使用痕分析による縄文時代の植物質食料の研究」(申請者)。
- 5 平成28年度海外渡航旅費助成研究者、公益財団法人豊秋奨学会、「日本先史時代のカゴ細工の民俗考古学的研究および博物館におけるカゴ細工の啓蒙普及活動」(申請者)。
- 6 2017(平成29)年度国際学術研究助成：外国人研究者等招致助成、公益財団法人平和中島財団、「縄文時代の低湿地遺跡の発掘方法と出土遺物の分析方法に関する日英共同研究」(申込者)。

### 13b. 研究助成金報告書(査読なし)

- 1 山本直人、1995年3月、「野生根茎類食糧化に関する民俗学・民具学的研究—クズ・ワラビを中心として—」、『財団法人味の素食の文化センター 助成研究の報告』5、43～47頁、財団法人味の素食の文化センター：東京。
- 2 山本直人、2003年3月、『加速器炭素14年代測定法による東海地方の弥生・古墳時代の年代に関する研究』平成14年度赤崎記念研究奨励事業研究成果報告書、名古屋。
- 3 山本直人、2006年6月、「縄文時代の終焉年代の刷新とその評価」『物質文化の歴史学再考』平成17年度名古屋大学大学院文学研究科プロジェクト「物質文化の歴史学創成」報告書、43～48頁、名古屋。
- 4 山本直人、2010年11月、「北米北西海岸における先史時代ドングリ貯蔵穴の日米共同研究」『第40回 2009 三菱財団研究・事業報告書』、84頁、公益財団法人三菱財団：東京。
- 5 市川彰・山本直人、2010年5月、「メソアメリカ考古学における時代区分論と年代論をめぐって」『古代メソアメリカの考古資料を用いた学際的発展研究 スペイン語によるフィールドワーカー養成プロジェクト』、39～41頁、名古屋大学大学院文学研究科：名古屋。
- 6 山本直人、2018年10月、「縄文時代の低湿地遺跡の発掘方法と出土遺物の分析方法に関する日英共同研究」『国際学術研究助成 研究成果報告書 平成29年度』、67～68頁、(公益財団法人)平和中島財団。

### 14a. 市民向け講演会等

- 1 2001年3月23日、野々市町教育委員会、野々市町史講座第13回、「縄文人の四季—御経塚遺跡で生活した縄文人—」、野々市町文化会館フォルテ。

- 2 2003年6月26日、古代学協会北陸支部・金沢大学埋蔵文化財調査センター・金沢大学考古学研究室、公開講演会、「縄文図像のテキスト科学的分析」、金沢大学附属図書館。
- 3 2003年11月3日、豊橋市教育委員会、平成15年度（第9回）文化財保護講演会、「放射性炭素で縄文・弥生時代を測る」、豊橋市駅前文化ホール。
- 4 2004年2月29日、美濃加茂市民ミュージアム、ミュージアムフォーラム、「縄文時代の年代と時代区分」、みのかも文化の森。
- 5 2004年4月24日、安城市教育委員会、市史講座『資料編考古について』、「縄文・弥生時代の較正年代」、安城市歴史博物館。
- 6 2004年7月3日、岐阜県教育委員会、平成16年度岐阜県発掘調査報告会、「土器付着炭化物による炭素14年代測定の有効性と問題点」、飛騨市古川町公民館。
- 7 2004年9月25日、国立歴史民俗博物館、くらしの植物苑体験教室、「『デンプン』のふしぎ」、国立歴史民俗博物館くらしの植物苑。
- 8 2004年9月25日、国立歴史民俗博物館、くらしの植物苑観察会、「植物採集文化を考える」、国立歴史民俗博物館くらしの植物苑。
- 9 2005年5月12日、名古屋大学博物館第39回特別講演会、「弥生時代はいつ始まったのか」、名古屋大学博物館。
- 10 2005年7月17日、鈴鹿市考古博物館、企画展『じょうもん土器とやよい土器』関連講座、「縄文土器から見たくらしと人々の知恵」、鈴鹿市考古博物館。
- 11 2006年4月8日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第1回、「縄文時代とはどんな時代か」、栄教室。
- 12 2006年4月22日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第2回、「縄文時代はいつ始まったのか」、栄教室。
- 13 2006年5月13日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第3回、「縄文時代に農耕はあったのか」、栄教室。
- 14 2006年5月27日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第4回、「ヒスイと巨木文化の里を歩く」、栄教室。
- 15 2006年6月10日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第5回、「火焰土器と土器太鼓の里を歩く」、栄教室。
- 16 2006年6月24日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文を旅する』第6回、「東海地方の貝塚を歩く」、栄教室。
- 17 2006年10月5日、名古屋大学、平成18年度公開講座、「日本考古学における暦年代の刷新とその評価」、名古屋大学シンポジオン。
- 18 2007年4月14日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』第1回、「縄文時代とはどんな時代か」、栄教室。
- 19 2007年4月28日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』第2回、「縄文人は何を食べていたのか」、栄教室。
- 20 2007年5月12日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』第3回、「縄文人の生活はどのようなものであったか」、栄教室。
- 21 2007年5月12日、安城市教育委員会、市史入門講座、「縄文の暮らしと社会」、安城市歴史博物館。

- 22 2007年5月26日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』第4回、「縄文人は何を祈ったのか」、栄教室。
- 23 2007年6月9日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』第5回、「縄文人のマツリはどのようなであったか」、栄教室。
- 24 2007年7月1日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文の暮らしとマツリ』現地講座、「長野・山梨縄文人の旅」、現地。
- 25 2007年10月27日、鯖江市教育委員会、間部学講座、「絵巻物と考古学—漆器を中心に—」、鯖江市嚮陽会館。
- 26 2008年4月12日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』第1回、「縄文時代とはどんな時代か」、栄教室。
- 27 2008年4月26日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』第2回、「縄文人はどのような植物を食料にしていたのか①」、栄教室。
- 28 2008年5月10日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』第3回、「縄文人はどのような植物を食料にしていたのか②」、栄教室。
- 29 2008年5月24日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』第4回、「縄文人は木をどのように利用したか」、栄教室。
- 30 2008年7月12日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』第5回、「縄文人は漆をどのように利用したか」、栄教室。
- 31 2008年7月13日、朝日カルチャーセンター名古屋、『縄文人と植物』現地講座、「北陸・縄文の旅」、現地。
- 32 2009年3月28日、金沢市役所、第9回市民ふるさと歴史研究会、「北陸地方の縄文時代晩期の様相」、金沢市埋蔵文化財センター。
- 33 2014年12月6日、石川県教育委員会、平成26年度講座考古学最前線、「縄文時代の食と手仕事—植物利用とその継承—」、石川県立美術館。
- 34 2015年4月26日、NHK文化センター名古屋教室、ヤマト王権・古代史講座：最新研究が解明する縄文時代、「縄文時代の地域社会」、同センター名古屋教室。
- 35 2016年2月13日、野々市市教育委員会、野々市市埋蔵文化財講演会、「手取川扇状地の縄文時代」、情報交流館カメラア。
- 36 2019年6月5日、春日井市文化スポーツ部、平成31年度かすがい熟年大学、「縄文時代の生業と社会～東海地方を中心に～」、文化フォーラム春日井。
- 37 2019年8月4日、石川県立羽咋高等学校同窓会本部、令和元年度総会講演会、「吉崎・次場遺跡と羽咋の黎明」、ロイヤルホテル能登。
- 38 2019年10月26日、石川県立羽咋高等学校同窓会東海支部、令和元年度総会講演会、「羽高地歴班と吉崎・次場遺跡」、ルブラ王山。
- 39 2020年10月10日、名古屋大学博物館、特別展関連講演会、「臨床考古学と基礎考古学—名大考古学講座の歩みから—」、オンライン。

#### 14b. 埋蔵文化財行政機関職員研修

- 1 2006年1月26・27日、財団法人石川県埋蔵文化財センター、平成17年度職員研修会、「加速器質量分析（AMS）放射性炭素年代測定法による年代学的研究」、同センター研修室。

- 2 2012年2月7・8日、鹿児島県立埋蔵文化財センター、平成23年度埋蔵文化財専門職員養成講座（上級講座）、『『中世村落の景観復元』の講義及び意見交換会『寄せられた諸検討課題について』の指導助言』、同センター研修室。
- 3 2015年1月26・27日、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、「鹿児島県大崎町京の塚遺跡の発掘調査指導」、現地。
- 4 2017年2月24・25日、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター、平成28年度環日本海文化交流史調査研究集会、「贈答からみた縄文時代の地域社会間交流」、同センター研修室。

#### 14c. 高校生向け出張講義

- 1 2003年7月3日、名古屋大学教育学部附属高等学校、第3回「一日総合大学」、同校。
- 2 2007年5月14日、石川県立金沢二水高等学校、平成19年度大学出張講義、「弥生時代はいつ始まったのか」、同校。
- 3 2014年10月20日、愛知県立江南高等学校『総合的な学習の時間：大学の講義を体験しよう』、「縄文人は何を食べたのか」、同校。
- 4 2019年10月28日、愛知県立江南高等学校『総合的な学習の時間：大学の講義を体験しよう』、「考古学による日本史研究：縄文人は何を食べたのか」、同校。

#### 14d. テレビ出演・マスコミへの取材協力

- 1 2016年6月26日、NHK、NHKスペシャル・古代史ミステリー『“御柱”～最後の“縄文王国”の謎～』。
- 2 2018年10月28日、北陸朝日放送、テレメンタリー『縄文柱の謎』。
- 3 2021年10月8日、CBCラジオ、『多田しげおの気分爽快～朝からP・O・N』「金曜ゲスト」。